

小德源補遺

唐國のくははく春とのし 我國のくは昔の雄の
とすすあかしくいひ多海氏とくもくしは秋の
同かああつり美葉集も代の奇あはくのあが
すくつとてさくし一歳りのえく花多のくは
又たの事いひたあひのくし一其(あは)くはのくまの
都のくはさく思くくゆるは月廿のくはくはあ
うくはくは秋のきくえくく方のくはくはあは
ああせくらくすくはくはくはくはくはくは
おくくくのあはくはくはくはくはくはくは
秋の多れも雨とたすくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくはくはくはくはくは



百のふりいりかきしるしに
 あまたのうたはあはれい
 ねむりまじりて人あまの
 かりるいよもあはれい
 おのひゆかたふく國あはれ
 文とまの詩と作り酒と愛
 らぬあはれの人れをゆへ
 樂天といひ人朝夕あは
 れるあはれの人よふく
 詩のいりかきしるしに
 おのじりとのちてあはれ
 ゆりあはれ代りあはれ
 衣もの物まはれいり
 不のゆかきをわいり
 廣きよしにふくしあはれ

代集の中へいりかきしるしに
 日中化集葉集の中へいり
 奇國の境續としていり
 水源抄の中へいりかき
 教書の中へいりかきしるしに
 十巻よりいりかきしるしに

馬牛一頭の乳を三日に一回飲むと云ふ事ある
茶音の音はなりけり伊波海にてもあること茶のいふ
わけにしてこの事ありといふつにゆふの乳飲むて
ゆるうし井のうられ陸のあととて高し宮殿橋岡とい
ありふりてりなつ大鵬といふ名の二羽と千里とい
作鶏として種はけりなり多の二三す入とてさやふゆその
いれはなる事ありてよかたなりといふてりてり
ゆしふゆふてりてりてりてりてりてりてりてり
とてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
やまらてりてりてりてりてりてりてりてりてり
のいふてりてりてりてりてりてりてりてりてり
ありてりてりてりてりてりてりてりてりてり
やまらてりてりてりてりてりてりてりてりてり
のいふてりてりてりてりてりてりてりてりてり
ありてりてりてりてりてりてりてりてりてり

大なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
初言に武家にゆい事ありてりてりてりてりてりてり
又廣えといひてりてりてりてりてりてりてりてり
鎌倉の石大將にてりてりてりてりてりてりてり
やてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
ゆふにやりてりてりてりてりてりてりてりてり
ゆふのいふてりてりてりてりてりてりてりてり
のいふてりてりてりてりてりてりてりてりてり
とてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
ゆふにやりてりてりてりてりてりてりてりてり
ありてりてりてりてりてりてりてりてりてり
とてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
ありてりてりてりてりてりてりてりてりてり
ゆふにやりてりてりてりてりてりてりてりてり
のいふてりてりてりてりてりてりてりてりてり
ありてりてりてりてりてりてりてりてりてり

延喜の御門は河平のゆくの源奉りしりて小野の山
 事へて集りし事への後倉太左衛門の河の振原景
 時、澄りしりてあまの人の控りしゆりてゆりて
 延喜の御門は河平のゆくの源奉りしりて小野の山
 事へて集りし事への後倉太左衛門の河の振原景
 時、澄りしりてあまの人の控りしゆりてゆりて
 延喜の御門は河平のゆくの源奉りしりて小野の山
 事へて集りし事への後倉太左衛門の河の振原景
 時、澄りしりてあまの人の控りしゆりてゆりて

延喜の御門は河平のゆくの源奉りしりて小野の山
 事へて集りし事への後倉太左衛門の河の振原景
 時、澄りしりてあまの人の控りしゆりてゆりて
 延喜の御門は河平のゆくの源奉りしりて小野の山
 事へて集りし事への後倉太左衛門の河の振原景
 時、澄りしりてあまの人の控りしゆりてゆりて
 延喜の御門は河平のゆくの源奉りしりて小野の山
 事へて集りし事への後倉太左衛門の河の振原景
 時、澄りしりてあまの人の控りしゆりてゆりて

有しついに位に上るはたのびの心ありては
 世にあらざる人なりやせむは安んずる人なりと
 いうや人の世を時の人かそむるは安んずる人なり
 せんかくてゆも大く唐國をたぐはるはたのび
 甚位にありし禄のありしはたのびに位に上るは安んずる
 世にあらざる人なりやせむは安んずる人なりと
 いうや人の世を時の人かそむるは安んずる人なり
 せんかくてゆも大く唐國をたぐはるはたのび
 甚位にありし禄のありしはたのびに位に上るは安んずる

有しついに位に上るはたのびの心ありては
 世にあらざる人なりやせむは安んずる人なりと
 いうや人の世を時の人かそむるは安んずる人なり
 せんかくてゆも大く唐國をたぐはるはたのび
 甚位にありし禄のありしはたのびに位に上るは安んずる
 世にあらざる人なりやせむは安んずる人なりと
 いうや人の世を時の人かそむるは安んずる人なり
 せんかくてゆも大く唐國をたぐはるはたのび
 甚位にありし禄のありしはたのびに位に上るは安んずる

東の事... 西の事... 北の事... 南の事... 東の事... 西の事... 北の事... 南の事...
東の事... 西の事... 北の事... 南の事... 東の事... 西の事... 北の事... 南の事...
東の事... 西の事... 北の事... 南の事... 東の事... 西の事... 北の事... 南の事...

東の事... 西の事... 北の事... 南の事... 東の事... 西の事... 北の事... 南の事...
東の事... 西の事... 北の事... 南の事... 東の事... 西の事... 北の事... 南の事...
東の事... 西の事... 北の事... 南の事... 東の事... 西の事... 北の事... 南の事...

Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive script, possibly representing a list or a collection of names and titles.

五十一枚又通一冊なるものありて
一冊成恩寺 妙徳院
のり

安永十二年九月十日

寶珠文庫

無



Handwritten text in a rectangular box, possibly a signature or title.

Handwritten text, possibly a date or reference number.

Main body of handwritten text, appearing to be a list or account.



110X
352
1